日本行動計量学会
計量学会会報

第45号
1988年8月15日

日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

今、〃行動計量〃に欲しいもの

水野欽司

日本行動計量学会の創立は、昭和四十八年九月三日。当時としては、珍しく学際的な学会の一つとして誕生したもので、人文社会科学、理工科学の別を問わず、多くの人が熱意と大きな期待を抱いて参集したのです。その背景には、コンピュータが普及し、末端の研究者も気軽に利用できる状況が生まれ、統計的な解析法に伴う複雑で大量の計算が可能になったという情勢も手伝ったといえます。多くの人々は、使いたくても使えなかった、新しい高度な（？）分析手法によって従来とは異なる精密で豊富な発見が得られると大いに期待したものと思われます。中でも数量化法や多変量解析は人気があり、実際、私が学会事務を担当していたとき、「多変量解析の学会だそうで、私も入会したい」という電話の入会申込みをよく受けたものです。確かに、本学会は、人間の行動現象に計量的にアプローチする方法論の確立を目標に創始したものであり、多変量解析的な種々の手法はその中でも重要な部分を占めていますから、そういう認識をもつ人が居ても当然だったのでしょう。

その頃から、本学会も十五年を経過しました。現状はどうか。コンピュータも分析手法も社会にすっかり定着し、初期のような分析手法へのナイーブな期待や熱気が見られなくなった反面、本学会の諸氏が着実に手法研究の成果を各方面に提供してきた努力は高く評価されてよいと思います。また、分析手法の解説書の刊行や統計ソフト類の普及の面でも学界や社会に貢献しております。

では、現在の本学会の活動は順風満帆といえるでしょうか。また将来に向けて新しい課題はないのか。過去の活動を振り返ってみる必要があると思います。

第一に、昨今の分析手法の研究は、数理的内容に重きを置き、現実の目的課題への有効性に対する関心が乏しいように、私は思うのですが、どうでしょうか。いかにソフィストケートされた手法でも旧来のデータ処理で得られる知見以上の新発見がないなら、意味がありません。だとすると、特定の問題とそのデータに即した解析方法を苦しくても開発する努力が必要でしょう。欲張った話ですが、少くともその気慨をもって貰いたいと思います。

第二には、右に関連して、実際の現象に強い関心をもって欲しいということです。今日の社会は、稀に見る大きな変化に直面しており、解決すべき問題が山積しております。特に人文社会科学の分野では、多種多様のデータを駆使して有効な解析により難題を解明して行かなければなりません。反面情報化時代といいながら、調査一つ行うにも、プライバシー問題のように情報の秘匿・管理が進み、容易ではありません。

その意味で、私は研究者相互が連携して積極的に難課題にチャレンジして貰いたいと思います。とかく〃数理〃に関心が向うのは日本人に多い美意識のなせる習性であると思いますが、本学会が目指す〃計量的方法論〃とは、荒削りであっても現実の難課題に対抗できる科学的で統合的なアプローチを指すものと、私は考えます。

その意味でも、会員諸氏がいわゆるアクション・リサーチ、フィールド・ワークなどを通じて、分析手法以前の現象知識やデータ収集の知恵などの練磨を日頃忘れないよう、期待しています。

みずの・きんじ
日本行動計量学会
理事・運営委員長
統計数理研究所教授

会議記録

○理事会

時・昭和六十三年六月十三日
所・統計数理研究所
出席者・理事十三名、監事一名

1. 編集、運営委員の委嘱を担当理事提出の原案通り承認した。
2. 林前理事長に、学会として感謝の意を表する行事を行うこととした。企画・実施は庶務担当理事を中心に行う（別稿参照）。
3. 各種委員会報告、事務局報告があった。

○運営委員会

時・昭和六十三年七月二十八日
所・統計数理研究所
出席者・運営委員九名

1. 水野新委員長の就任挨拶。新任、留任の委員の自己紹介。
2. 当面は、前委員会からの引継ぎ企画（月例シンポジウム、会報等）を早急に実行することとした。
3. 本学会における運営委の今後のあり方に関して、全般的な意見交換を行った。

第八期各種委員決まる

六月十三日開催の理事会で承認された各種委員の氏名は以下の通りです。任期は昭和六十六年三月末日までです。

なお、刊行物委員の人選は、次回以降の理事会で決定する予定。

○編集委員会

（編集委員長）野元菊雄（国語研）
（**和文誌**編集幹事）幹事長・古川俊之（東大・医）、幹事・石塚智一（大学入試センター）、稲田紘（循環器病センター）、上島弘嗣（同前）、大橋靖雄（東大・医）、大津展之（電総研）、楠正（武田薬品）、久保武士（筑波大・医）、熊田禎宣（東工大・社会）、後藤昌司（塩野義製薬）、駒澤勉（統数研）、小山照夫（学術情報センター）、阪本州弘（兵庫医大）、佐藤隆博（日電・情報研）、繁桝算男（東工大・教育）、鈴木庄亮（群馬大・医）、田栗正章（千葉大・理）、丹後俊郎（公衆衛生院）、直井優（阪大・人間科学）、藤田利治（公衆衛生院）、林恭一（京都府医大）　以上二十一名
（**欧文誌**編集幹事）幹事長・宮原英男（北里大・医）、幹事・海野道郎（東北大・文）、上笹恒（筑波大・哲思）、斎藤堯幸（北大・文）、新村秀一（住商コンピュータサービス）、杉山明子（東京女子大）、田中豊（岡山大・教養）、丸山久美子（聖学院大）、宮埜寿夫（千葉大・文）、村上征勝（統数研）、薬師寺泰蔵（埼玉大・情報解析センター）、柳井晴夫（大学入試センター）　以上十二名

○運営委員会

（委員長）水野欽司（統数研）
（委員）石塚智一（大学入試センター）、市川伸一（埼玉大経済短大部）、市川雅教（東工大・工）、海野道郎（東北大・文）、柏木宣久（統数研）、楠岡英雄（阪大・医）、杉戸清樹（国語研）、高木廣文（聖路加看護大）、垂水共之（岡山大・教養）、辻本英夫（大阪市大・文）、野嶋栄一郎（早大・人間科学）、水田正弘（北大・工）、村上隆（名大・教育）、柳原良造（マーケティング・サービス）　委員、以上十四名

会員数（63・6・30現在）
名誉会員　一名
正会員　一、〇一八名
準会員　七一名
賛助会員　二九社

第16回大会近づく

すでに大会プログラムもお手元に届いていることと思いますが、第16回大会が近づきました。

きたる八月二十五日(木)から二十七日(土)まで
千葉大学文学部にて

大会実行委員会（柏木繁男委員長）のご努力のもと、例年にもまして盛りだくさんの企画が予定されています。

〔特別講演〕

○データ解析とは何か
　専修大　韓　豊太郎
○政治意識の数量的分析
　東京女大　京極　純一

〔シンポジウム〕

○環境評価
○脳死と行動計量学
○フラクタクル
○入学試験

右のほか、九つのセッションに分かれての研究発表、総会、懇親会などももちろん行われます。

会員各位の積極的なご参加をお願いします。お近くの非会員の方にもお声をおかけ下さい。

学会関係の諸手続き、連絡先のご案内

新理事会の会務分担や各種委員が決まりました。学会関係の手続きや連絡先は左の一覧表および下記の通りです。ご確認下さい。

学会事務センター関係	
学会費の納入 所属・住所の異動連絡 学会誌・会報など郵便物 入会・退会の申込み	〒113　東京都文京区弥生2－4－16 ㈶日本学会事務センター　日本行動計量学会係 電話　03－817－5801 （振替　東京9－55247　日本学会事務センター）
学会誌への投稿先	
"Behaviormetrika" への投稿	〒228　相模原市北里1－15－1　北里大学医学部内科 宮原　英夫（欧文誌編集幹事長）あて
『行動計量学』 への投稿	〒113　東京都文京区本郷7－3－1　東京大学医学部 医用電子研究施設　古川俊之（和文誌編集幹事長）あて
刊行物等の購入方法	
"Behaviormetrika" 購読	〒101　東京都千代田区猿楽町1－2－1 日本出版貿易㈱（電話　03－292－3751）
『行動計量学』　購読	〒101　東京都千代田区西神田2－4－6 南　窓　社（電話　03－261－7617）
大会発表抄録集の予約購入	各大会実行委員会の「大会案内」の指示による
講習会テキストの予約購入	講習会担当運営委員の「お知らせ」の指示による
以上のバックナンバーの 購入・照会	〒115　東京都北区西が丘3－9－14 国立国語研究所　江川　清（事務局担当） 電話　03－900－3111 （振替　東京8－148056　日本行動計量学会）
和文誌への投稿用 原稿用紙の購入	
対外関係 （学術会議，他学会など）	学会の公的な所在地は統計数理研究所とする （〒106　東京都港区南麻布4－6－7）

〔学会誌の購読・購入〕

○会員以外の個人や法人が学会誌の購読を希望する場合は、

①和文誌は南窓社

②欧文誌は日本出版貿易

をご利用下さい。所在地は上の表ないし既刊誌の奥付をごらん下さい。

○学会誌のバックナンバー（および大会抄録集・講習会テキストのバックナンバー）の購入は、学会の事務局（国語研・江川）が受付けます。この場合の送金は、郵便振替（上表参照）を原則とします。大学・会社などの購入で他の支払い法を希望する場合は、事務局（江川）まで文書でご連絡下さい。バックナンバー在庫の有無、価格などの問合せも同じです。

〔学会誌への投稿〕

○投稿は、**執筆要領**の指示を厳守して下さい。執筆要領は、欧文誌・和文誌それぞれの表紙内側に記載してあります。

○和文誌への投稿は、原則として学会専用の原稿用紙によります。申込み、送金先は事務局（国語研・江川）です。ただし、**ワープロ出力**による投稿はこの限りではありません。通常の用紙・印字で受付けますが**一行24字**の横書きは厳守して下さい。

○投稿先（原稿の送付先）は事務局ではなく、和文誌・欧文誌それぞれの編集幹事長です。上表を参照して下さい。

〔会員の所属・住所などの変更〕

○所属や住所に変更があった場合は、次の要領で学会事務センターにご連絡下さい。

①必ずハガキによる。電話連絡は不可。

②あて先は、日本学会事務センターの日本行動計量学会係。（所在地は上表を参照）

③本人氏名と会員番号を明記する。会員番号は、各会員あての郵便物のあて名の右下に印字された、全10桁の数字です。

④変更した事項、異動内容を、新旧の対比がはっきりわかるように記載すること。

○これまでにも、住所や連絡先の変更が確実に知らされなかったため、学会からの郵便物が戻ってきてしまう例がかなりあります。忘れずに、お早目に。

☆以上、会員の皆様のご協力をお願いいたします。（事務局）

林知己夫先生に感謝する会のご案内

すでにお知らせしたように、来たる八月二十六日（金）の大会懇親会で、〈林知己夫先生に感謝する会〉を開催いたします。

林知己夫先生は、ご存じのように、この三月末まで当学会理事長を永くおつとめになりました。本学会は一九七三年に発足して以来、学際的研究をめざす学会として活動を続けて今日の隆盛をみるに至っているわけですが、これは十五年の間、理事長として陣頭指揮にあたってくださった林先生のお陰であること、あらためて申上げるまでもありません。

そこで、先生が過日（六月六日）満七十歳をお迎えになったよき時を選び、これまでのご苦労とご功績に感謝の意を捧げる会を企画しました。

会員各位の多くのご参加をお願い申上げます。

場所　本年度大会の懇親会会場
会費　一口　二、〇〇〇円
（当日、会場で申受けます）

〈林知己夫先生に感謝する会〉
代表者・学会理事長・肥田野直

本学会賛助会員の紹介

本学会には、賛助会員（法人）の制度があります。

この学会の諸活動が大きな支障なしに維持されているのは、学会設立の趣旨に賛同し支援して下さっている賛助会員の存在に、その多くを負っています。

昭和六十三年七月一日現在の賛助会員二十九社は次の通りです。

㈱朝日広告社
朝日新聞社広告局
朝日新聞社世論調査室
川村義肢㈱
㈶計量計画研究所
㈱サーベイリサーチセンター
産業図書㈱
㈱市場調査所
㈱社会行動研究所
㈶集団力学研究所
㈱数理計画
㈱スミス
㈶生命保険文化センター
センチュリ・リサーチセンタ㈱
㈱大広
㈱竹中工務店情報センター
㈱中央調査社
㈱電通リサーチ
㈱日経リサーチ
日本経済新聞社日本消費経済研究所
㈱日本・精神技術研究所
㈱日本損害保険協会
㈱野村総合研究所
㈱ビデオリサーチ
㈱マーケティングサービス
㈱マーケティングセンター
㈱ミドリ十字
㈱輿論科学協会
㈱リサーチインフォメーションセンター

（五十音順）

協賛する講習会のお知らせ

○講習会
「ファジィ」推論法――理論と実際
時　昭和63年11月21日（月）22日（火）午前九時半開始
所　東京大学・山上会館大会議室
（東京都文京区本郷7丁目）
テーマ　ファジィ推論法の基礎知識・演習。応用面における最近の話題、事例報告など
会費　会費二万円、非会員三万円
学生一万円（現金書留）
申込み・問合せ先
〒113東京都文京区本郷一丁目35－28－303　計測自動制御学会
電話　〇三－八一四－四一二一

学会の健全な運営のために――会費早期納入のお願い

あらためて言うまでもなく、学会誌の編集・刊行、その会員各位への発送、あるいはシンポジウムの開催など、学会の根幹をなす諸活動は、もっぱら会員各位による会費で支えられています。

大多数の会員各位には、今年度分の会費もすでに納入いただいていて、ご理解とご協力に感謝いたす次第です。

しかしながら、そうしたなかで残念なことに、前年度までの会費をまだお納め下さっていない会員のいらっしゃることも事実です。

こうした会費未納の会員へも、学会誌の郵送をはじめ、通常の取扱いをしていくために、学会はかなりの経費を費していています。これはすべて、通常に納入なさった会員の負担によるわけで、不都合な状態であるといわざるを得ません。

事務局としても、連絡先不明者の追跡など努力いたしますが、それとともに、未納の分をおもちの会員各位のご理解・ご協力をあらためてお願い申上げる次第です。

（学会事務局）